

平成22年7月16日
内閣官房総合海洋政策本部事務局

第3回海洋立国推進功労者表彰について

文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得て実施している「第3回海洋立国推進功労者表彰」につきまして、5名2団体が表彰されましたので、別紙資料の通りお知らせいたします。

別紙資料

- 資料1 第3回海洋立国推進功労者表彰受賞者リスト
- 資料2 各受賞者に関する功績事項の概要
- 資料3 海洋立国推進功労者表彰について（概要）

【お問い合わせ先】

文部科学省研究開発局海洋地球課

岩村 03-5253-4111（内線 4459）

農林水産省水産庁漁政部企画課

大久保、鳩野 03-6744-2343（直通）

経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部政策課

毛利 03-3501-2773（直通）

国土交通省海事人材政策課海事振興企画室

野村、山本、新發田 03-5253-8946（直通）

環境省地球環境局環境保全対策課

秋本、清家 03-3581-3351（内線 6747、6748）

第3回 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
普及啓発	いしはら よしかた 石原 義剛	72	海の博物館館長	【海洋に関する文化財の収蔵・展示】 三重県鳥羽市にある「海の博物館」を昭和46年から二代にわたり私財を投じて運営している。当博物館は国指定重要有形民俗文化財6,897点を 含む約58,000点を展示する日本一の規模を誇る博物館として、「海」と「人 間」との深い関わりを伝えている。また、海の博物館の展示だけにとどまら ず、積極的に講演や海の環境問題にも力を入れている。
普及啓発	しずおかけんりつ 静岡県立 やいづ すいさんこうとう がっこう 焼津水産高等学校	—	静岡県	【総合的な海洋教育】 永年にわたり漁業および水産加工分野を中心に水産教育を推進し、その 間多くの水産関連人材を輩出した。あわせて、地域に根ざした商品の開 発等でも地元の活性化に大きく貢献した。また、実習船「やいづ」は、海上 保安庁へのデータ提供、国際プロジェクトであるアルゴ計画への参画な ど、地域を越えた貢献もしている。
科学技術	うえはら はるお 上原 春男	70	元佐賀大学長	【海洋温度差発電に関する研究】 長年にわたり「海洋温度差発電」についての研究に従事し、今後の実用 化に資する今までにない高効率なシステムを発明した。また、水の淡水化 や水素製造に、この技術を活用する仕組みについても研究を推進した。 さらに、国連本部で、海洋温度差発電についての講演を行うなど、長年に 渡り研究だけではなく技術普及や啓蒙活動にも従事した。
地域振興	いしだ はじめ 石田 啓	63	金沢大学理工研究域環境 デザイン学系教授	【工学的知見を用いた景観保全】 「寄り回り波災害」において軽減効果を発揮した富山湾の新型有脚式離 岸堤の建設指導や日本三大松原の一つである気比松原の優れた景観を 損なうことなく養浜を成功させ観光客の増加に寄与する等、30年以上に亘 り、海岸工学や流体力学の学術知見を基に、北陸沿岸全体の海岸や港 湾の計画・保全に努め、種々の問題解決を図った。

※年齢は平成22年 7 月 1 日現在。

第3回 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部 門	氏名・名称	年 齢	所 属	功 績 事 項
科学技術振興	たかはし こうぞう 高橋 孝三	62	九州大学大学院教授	【海洋における気候変動研究】 厳しい気象環境のため、過去にほとんど行われなかった北極域における海洋調査を国際プロジェクトとして推進し、海洋による二酸化炭素の吸収・放出、生物による炭素の固定化など地球温暖化について理解を深める上で重要な極域での炭素循環の解明に貢献。5000万年前の温暖な時代の北極海の様子を明らかにするなど成果をあげた。
水産振興	きんぎ だいがくすいさんけんきゅうしょ 近畿大学水産研究所	—	学校法人近畿大学	【クロマグロの完全養殖と量産化】 近畿大学水産研究所では、2002年に世界で初めてクロマグロの完全養殖を達成した。その後も生残率の向上など産業化を目指した研究を続けた結果、完全養殖クロマグロ幼魚の養殖用種苗の生産尾数が2009年には約4万尾に拡大した。クロマグロをめぐる国際的な資源問題の解決策を提示した。
海事	なかむら つねお 中村 庸夫	60	海洋写真家	【海洋に関する芸術活動】 海洋写真家の第一人者として、帆船や客船の写真のみならず、海洋生物、海の食材等の写真を通じ、日本の海洋文化を諸外国に紹介した。また、世界各国の船を日本において紹介し、双方の海事思想の普及に寄与した。

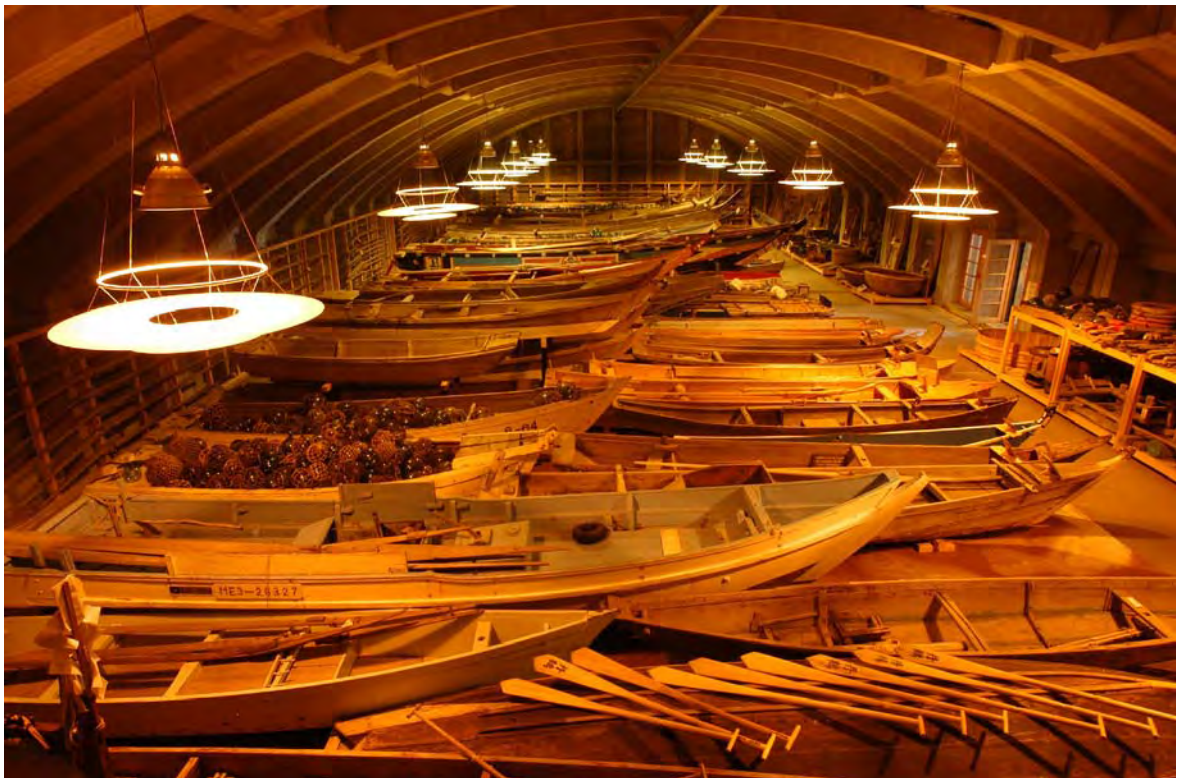
※「自然環境保全」部門については該当者なし。

※年齢は平成22年7月1日現在。


氏名又は 団体の名称	いしはら よしかた 石原 義剛	年齢	72
所属	海の博物館館長		

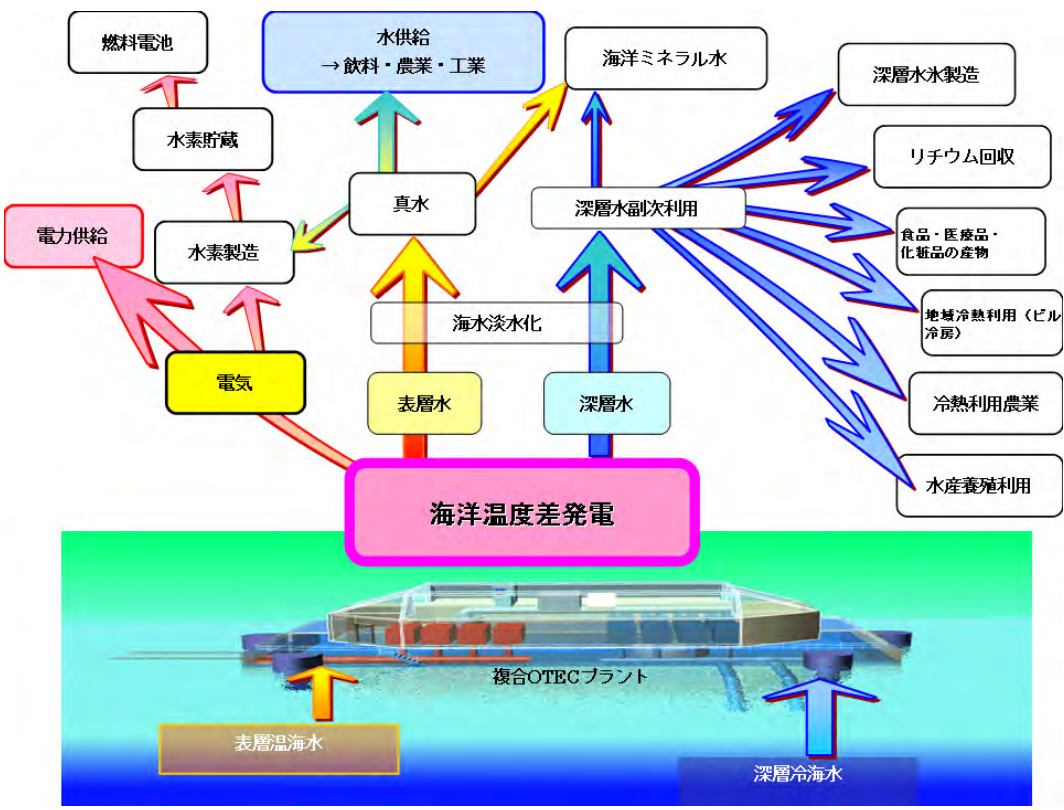
功 績 の 概 要

1. 三重県鳥羽市にある海の博物館を昭和 46 年から二代にわたり、他からの援助無く、私財を投じて運営している。当博物館は漁業・船・海女等に関する国指定重要有形民俗文化財 6,879 点を含む、日本一の規模を誇る約 58,000 点の民俗資料を通して、「海」と「人間」との深い関わりを伝えている。また、海離れが進んでいる中で、一般市民に対して実際に体験できるメニュー（海藻おしばづくり、櫓こぎ等）を取り入れて海とのふれあいの場を提供している。
2. 博物館の展示に留まらず、講演活動やフォーラムの開催も積極的に行っており、最近では、全国のみならず韓国からも海女さんが参加した「海女フォーラム」（平成 21 年鳥羽市・財団法人自治総合センター主催）を初めて開催し、海の魅力について積極的にアピールする等、海洋に関する普及活動を行っている。
3. 早くから海を守る SOS（Save Our Sea）運動を主宰し、海にゴミを捨てない運動の一環として、海辺のゴミの実情周知のため全国に漂着物アートの制作を呼びかけ作品展を開催する等、海の環境問題にも力を入れている。



日本全国から集めた小型木造船

氏名又は 団体の名称	しずおかけんりつやいづすいさんこうとうがっこう 静岡県立焼津水産高等学校	年齢	—
所 属	静岡県		
功 績 の 概 要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 永年にわたり漁業および水産加工分野を中心に水産教育を推進し、その間多くの水産関連人材を輩出。 2. カツオや金目鯛の魚醤油の製造を通じ、地域活性化商品の開発に貢献。 3. 実習船「やいづ」は海況データを海上保安庁に提供することで海洋速報の作成に協力し、JASREP（日本船位通報制度）参加船舶としても度々優秀・優良通報船の表彰を受賞。 4. また、同船はアルゴフロートの投入・回収協力を通じ、国際プロジェクトであるアルゴ計画へも貢献。 5. 81年前に焼津水産高等学校の前身で考案された「マグロの油漬け缶詰（ツナ缶）」を、現在でも生徒が製造し、伝統製法を受け継いでいる。 			
			
カツオの一本釣りの実習風景			

氏名又は団体の名称	うえはら はるお 上原 春男	年齢	70
所属	元佐賀大学長		
功 績 の 概 要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 長年にわたり「海洋温度差発電」についての研究に従事、今までにない高効率なシステム「ウエハラサイクル」を発明。 2. 海洋温度差発電で利用した後の温海水と冷海水についても応用を検討し、少ない温度差を活用した海水の淡水化プロセスについても研究。 3. 海洋温度差発電で発生した電力と海水から得られた淡水から水素を製造し、石油代替の燃料として利用することについても早くから取り組んだ。 4. 2004 年国連に招聴され、ニューヨーク国連本部における「第 12 回持続可能な開発委員会」で、海洋温度差発電についての講演を行うなど、長年に渡り技術普及・啓蒙活動に従事した。 5. 現在、石油精製プラントの排熱を利用した約 4000KW の温度差発電実証プラントが稼働しており、実用化に向けて実績を積み上げている。 			
 <p style="text-align: center;">「ウエハラサイクル」の概念図</p>			

氏名又は 団体の名称	いしだ はじめ 石田 啓	年齢	63
所 属	金沢大学理工研究域環境デザイン学系教授		
功 績 の 概 要			
<p>1. 渚ドライブウェイを持つ石川県の千里浜の保全や、平成 20 年の「寄り回り波災害」において軽減効果を発揮した富山湾の新型有脚式離岸堤の建設指導を行うと共に、日本三大松原の一つである福井県の「気比の松原」の優れた景観を損なうことなく養浜を成功させて観光客の増加に寄与する等、30 年以上に亘り、海岸工学や流体力学の学術知見を基に、北陸沿岸全体の海岸や港湾の計画・保全に努め、種々の課題解決を図った。</p> <p>2. 志賀原発の 100 トン消波ブロックの製造、敦賀原発の珊瑚礁の回避、島根原発のエアバブルカーテン※を用いた汚濁水遮断工法による問題解決等、各原発の海工事に関して海岸工学的見地から種々の指導を行った。 ※エアバブルカーテン：海底に配置した多孔給気管から空気泡を噴出させ、エアーカーテンを形成</p> <p>3. 高波浪時での重油回収が困難であった白山丸の油回収機「シクロネ」の改善を図り、回収効率を画期的に向上させると共に、携帯用高粘度重油回収機を開発・製品化し、また重油漂着海岸に生息する数種類の重油分解細菌の発見や、更には、海水を含んで固化（エマルジョン化）した重油を元の重油と海水に分離するエコ薬品の開発を行う等、環境保全にも努める。</p>			
			
<p>日本三大松原の一つである “気比の松原”の養浜</p>		<p>エアバブルカーテンによる船舶航行 可能型の汚濁水遮断工法の開発 (島根原発において成功)</p>	

氏名又は 団体の名称	たかはし こうぞう 高橋 孝三	年齢	62
所 属	九州大学大学院教授		
功 績 の 概 要			
<p>1. 北太平洋亜寒帯・ベーリング海域など、地球温暖化について理解を深める上で重要な寒冷域における炭素循環の解明に貢献。海洋による二酸化炭素の吸収・放出、生物による炭素の固定レベル等の時間変化を測定した。</p> <p>2. 厳しい気候環境のため、過去に行われなかった海氷域での海底の掘削調査の実施（2004年）に大きく貢献。2009年のベーリング海での深海掘削調査では、国際プロジェクトの共同代表として調査全体を取りまとめた。</p> <p>3. これら研究により、気候変動の仕組みを解明する上で重要な海氷の発達史の解明に貢献。5600万年前の温暖な時代から4400万年前まで、徐々に寒冷化した北極海の様子や、300万年以降のベーリング海の海氷の発達史を明らかにした。</p> <p>4. これらの研究の過程で、プランクトンなどの微化石のうち、計36種が新種であることが判明した。</p>			
			
<p>スウェーデンの砕氷研究船オーデン号に乗船し極点付近で深海掘削を終え、北極点に立ち寄った様子。中央左側が高橋氏。</p>			

氏名又は 団体の名称	きんきだいがくすいさんけんきゅうしょ 近畿大学水産研究所	年齢	—
所 属	学校法人近畿大学		
功 績 の 概 要			
<p>1. 近畿大学水産研究所は、人工孵化・飼育したクロマグロを親魚まで育て、その親魚から再び受精卵を得て人工孵化・飼育するいわゆる「完全養殖」を2002年に世界で初めて達成した。これまでのところ、クロマグロの完全養殖及びミナミマグロの種苗生産を達成した機関は、世界でも近畿大学水産研究所のみである。</p> <p>2. その後も生残率の向上など産業化を目指した研究を続けた結果、2007年には完全養殖クロマグロ幼魚の養殖用種苗として1,500尾を出荷し、2009年にはその生産尾数が約4万尾までに拡大した。</p> <p>3. クロマグロやミナミマグロの資源減少は、本年3月のワシントン条約締約国会議において大西洋クロマグロの商業的国際取引の禁止が議論がされる等、国際問題となっている。このような中、養殖産業において実用可能なレベルまで技術を進展させ、資源減少に対する有効な解決策を提示した。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>写真下：氷の中で出荷を待つ完全養殖クロマグロ 写真右：近大水産研究所のいけすからつり上げられる完全養殖クロマグロ（資料：近畿大学）</p> </div>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			

氏名又は 団体の名称	なかむら つねお 中村 庸夫	年齢	60
所 属	海洋写真家		
功 績 の 概 要			
<p>1. 海洋写真家の第一人者。30年以上の間、毎年半年程度を海外での取材に費やし、北極から南極まで、地球七つの海を旅しながら海洋や船舶の写真を撮り続ける。諸外国においては、撮影した帆船や客船の写真を通じ日本の海洋文化を紹介するとともに、世界各国の船を日本においても紹介する等、双方の海事思想の普及に寄与した。世界各地で精力的に撮影した写真は写真展や、100タイトル以上の写真集等で発表され、広く国民一般に海へのロマンと憧れを感じさせるものである。</p> <p>2. クジラやイルカ等の海洋生物や海の食材にも関心が深くこれらの著作物も多く発表し、海の多面的な角度からも一般国民へアプローチしている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="196 1059 951 1568">  </div> <div data-bbox="997 1205 1337 1357"> <p>10月末のマイナス35度の南極大陸、ウェッデル海のコウテイペンギンの繁殖地にて</p> </div> </div>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="236 1758 719 1832"> <p>中村氏の作品 (大阪港に停泊中の外航クルーズ船)</p> </div> <div data-bbox="767 1568 1377 2049">  </div> </div>			

海洋立国推進功労者表彰について（概要）

1 趣旨

海洋政策を強力に推進し新たな海洋立国日本の実現を図るためには、海洋に関する国民の理解の増進を図ることが不可欠であり、海洋基本法においても、国がそのための普及啓発活動等に取り組むべきことが規定されている。

このため、平成20年より「海洋立国推進功労者表彰」を設け、科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を表彰し、その功績をたたえ広く世に知らしめることにより、国民が海洋に対する理解を深めていただく契機とする。

なお、本表彰は海洋基本法に基づく海洋基本計画にも位置づけられている。

2 表彰者

内閣総理大臣

3 対象分野

科学技術、水産、海事、自然環境など海洋に関する幅広い分野での功績を対象とする（別紙参照）。

4 実施省庁

文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が、内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得ながら実施する。

5 表彰者数

全体で8名以内とする（別紙の「1 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野」については全体で4名以内、「2 「海洋に関する顕著な功績」分野」については部門ごとに1名以内とする）。

6 選考の方法

- (1) 候補者については、原則として、関係省庁、関係団体、地方公共団体の推薦によるものとする。
- (2) 有識者からなる中立的な選考委員会を設置し、受賞者の選考を行う。

(別紙)

表彰の対象分野

1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

(全体で4名以内)

(1) 「普及啓発・公益増進」部門

・海洋に関する普及啓発・公益増進の著しい功績

(2) 「科学技術・学術・研究・開発・技能」部門

・海洋に関する優れて画期的な科学技術・学術・研究・開発・技能の成果

(3) 「産業振興」部門

・海洋に関する産業分野での優れて画期的な経営革新等

(4) 「地域振興」部門

・海洋に関する分野での優れて画期的な地域振興施策

2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

・・・既存の各省大臣表彰を経たもの
(各部門に1名以内、計4名)

(1) 「海洋に関する科学技術振興」部門

・海洋に関する科学技術分野での研究開発

(2) 「水産振興」部門

・水産業の振興、水産分野の研究・技術開発

(3) 「海事」部門

・海運、造船、船員、港湾、海上保安等海事関係事業の振興

(4) 「自然環境保全」部門

・海洋に関する自然環境の保全

(全体で8名以内)